

学芸員のちょこつと解説

中世の日本では、琉球王国や中国などとの交易が盛んに行われました。中でも堺は、人・物・情報が行き交う日本屈指の貿易都市でした。

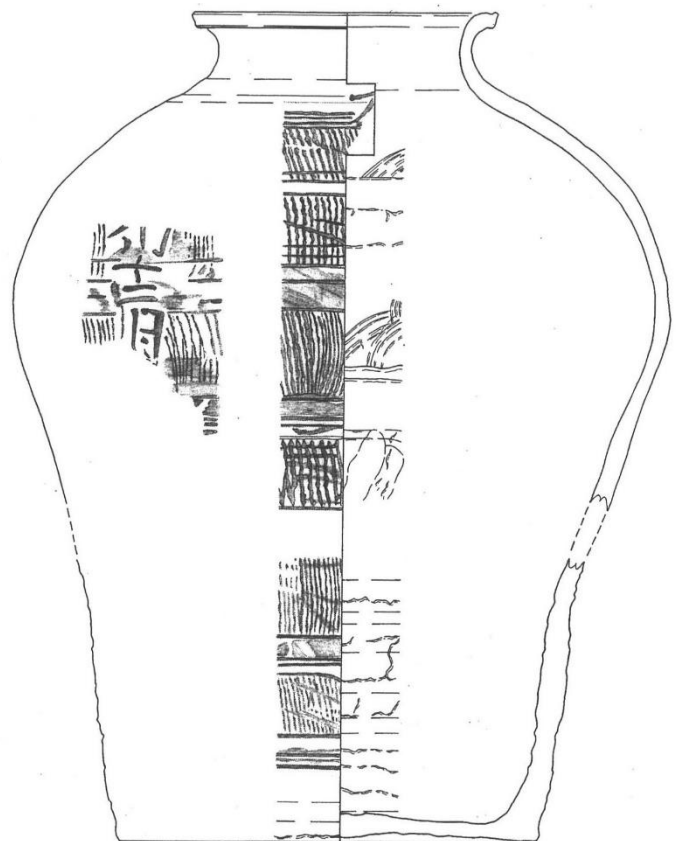
15世紀後半頃は、朝鮮から様々な品物が日本海や瀬戸内海を通じて日本に運ばれました。^{さかいかんごうと しいせき}堺環濠都市遺跡でも、この頃の遺構から小皿などの食器や、壺・鉢・瓶などの容器が出土しています。

右下の壺は、平成13年3月から7月にかけて堺区市之町西二丁で実施された発掘調査において、15世紀後半に町が焼失した遺構面から出土しました。

高さ約40cmの壺で、器の表面にスタンプや鋭利な棒状工具でくぼみを設け、そこに白土を埋め込む^{そうがん}「象嵌」という方法で文様を表現しています。朝鮮で生産されたこのやきものは「粉青^{ふんせい}沙器^{さき}」といい、文様の特徴から現在の韓国^{けいしょうなんどう}の慶尚南道で生産されたと考えられます。

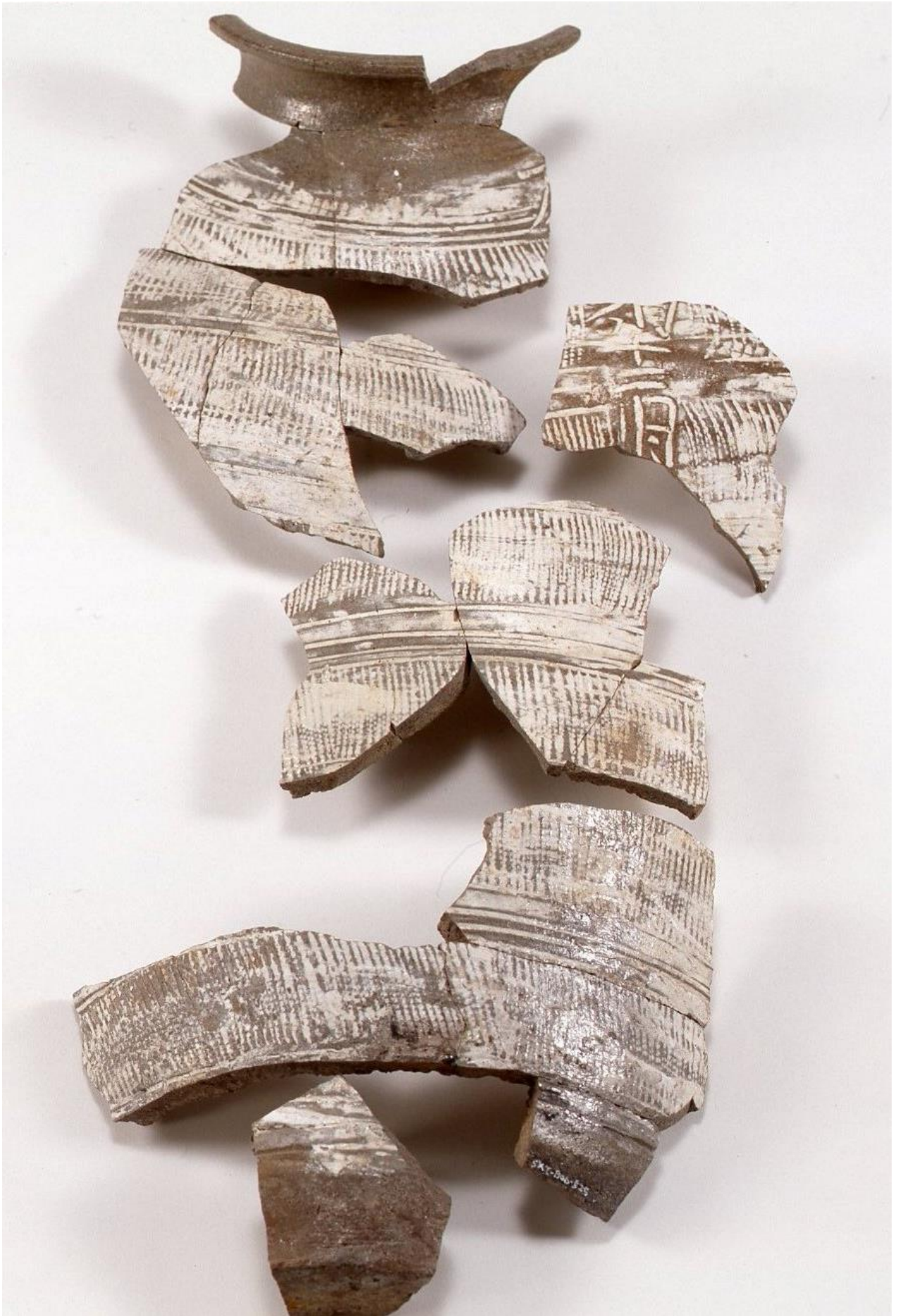
壺の上部には「□□□十二月」などの文字が刻まれています。もしかしたら壺を製作した月を記していたのかもしれませんが。

今だけ
山口家住宅で見ることができるよ！



韓国粉青沙器壺

(SKT806 出土、堺区市之町西二丁)



韩国粉青沙器壺 (SKT806 出土、堺区市之町西二丁)

17世紀になると朱印船貿易しゅいんせんぼうえきにより、東南アジアを經由して中国製の「大皿」が国内に輸入されるようになります。大皿は、大人数での豪華な宴席料理えんせきりょうりなどで使用されました。

右下の皿は、平成17年12月から平成18年3月にかけて堺区車之町西一丁で実施された堺環濠都市遺跡さかいかんごうとしいせきの発掘調査において、慶長20年（1615）大坂夏の陣ぜんしょうせんの前哨戦によって被災した遺構面から出土しました。

本品は、現在の中国福建省ふっけんしょうの窯で生産されたものです。口径42cmを測る非常に大きな皿で、口の縁りんかを輪花に作っています。

見込みの周縁には多くの草花を配置し、中央には1匹の水鳥が右方向に空を飛び、それを見上げるように2匹の水鳥が蓮池の中に佇む情景を藍色の顔料で描いています。



今だけ
鉄炮鍛冶屋敷で見ることができるよ！

中国青花花鳥文大皿
(SKT929 出土、堺区車之町西一丁)



中国青花花鳥文大皿（SKT929 出土、堺区車之町西一丁）